最初の思い出・最後の思い出

石原 一志［大阪府］

働いていた遊園地で、大事故が起きた。死者を出し、来園者は極端に減少。メディアは「安全神話崩壊」と毎日のように報道した。

私の担当は、「UFOサイクル」。二人並んでペダルをこぎ、空中散歩を楽しむアトラクション。どしゃぶりの雨の日。カップルが、誰もいない入口に並んだ。「雨が止むまで、こちらでお待ちいただいてよろしいでしょうか？」「はい。」男性が笑顔で応えた。雨が止むまでは、屋根のあるスタート地点で待機していただく規定になっている。

まだ雨は止まない。

数分の沈黙があって、女性から切り出した。「なあ、なんでこんなとこ来たん？もっとええとこあったやろ！」男性はすこし笑うと、胸ポケットから古い写真を取り出した。「こないだ、実家に帰った時に見つけてん。この時は、高いとこが苦手で、よぉ泣いとったなぁ。」UFOサイクルに乗り、泣いている男の子の頭に手をあてる女の子が写った写真。「小学校の遠足写真。自分からこれ乗ろって誘ったのに、怖くて泣き出して、かっこ悪かってん。覚えてる？」「覚えてるわけないやろ。そんな前のこと！でもこの時くらいから仲良かったって、なんとなく覚えてる。」

雨が止んだ。

「結婚しよう。」「えぇっ！？はぁ？・・まぁ、えぇけど、あたしのゆうことは、ちゃんと聞いてや！洗濯も、皿洗いも手伝ってや！お風呂も洗ってな！子どもできたら、子育てもちゃんとしてや！できる？」「おう。」

「雨も止みましたので、そろそろ出発しましょうか！それでは、空中散歩へ、いってらっしゃーい！」無線を飛ばす。「祝福したいカップルがいらっしゃいます。お手すきのスタッフはUFOサイクルまで。」数名のスタッフでブーケを作り、帰りを待った。

「おめでとうございます！」静かな園内に祝福の音が響く。女性が涙を流して笑うと、記念撮影スタッフが、シャッターを切った。

二人の結婚式の写真が送られて来た頃、遊園地の閉園が正式に決定した。